



いとう 伊藤 おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行責任者：高橋 正久

平成15年7月1日発行 No.6

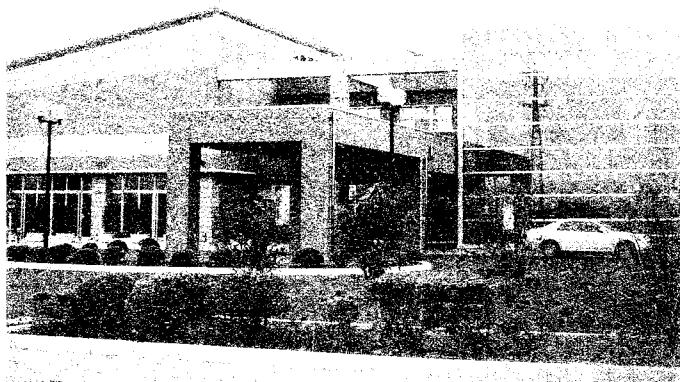
〒343-0838 越谷市蒲生三丁目七番七号 TEL 048-985-4826 FAX 048-989-2397
E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL <http://www.ae.wakwak.com/~osamucha>

越谷総合体育館の前に、新しく出来た「いきいき館」は、市内で3番目になる老人福祉センター「ゆりのき荘」と併設された複合施設です。

これまでの福祉センターと違って、市民プール・トレーニングルームと車イスでも利用が出来るプール・子供用プール・屋上緑化スペースといったものもあり、多様な市民ニーズに対応した施設となっています。

市民プールの利用時間も、午前9時30分から午後9時30分まで（2時間30分の入れ替え制）。料金も、一般400円で割安感があります。しかも、越谷市民だけではなく、5市1町の人々にも開放されています。

バスは越谷駅から「総合公園」行き。新越谷駅から「東埼玉テクノポリス」行き。いずれも「総合体育館前」で下車。徒歩3分です。



いきいき館



温水プール

新 し い 風

八名の新人議員が当選したことは、新しい風を送ることになった。

この、新人議員の初舞台となるのが六月議会での一般質問である。自分の思いや意見、或いは政策といったことを質問という形で公の場である議会で表現することは内容も含めていきさか緊張するものである。今回、出来れば全員が質問に立つて欲しかったが、六名だけであった。その、六名全員の発言を聞いて、感じたことがいくつかある。一つは、内容についてだが、具体的で説得力のあるのと、抽象的で自己認識の開陳で終わつたのと、質問内容の説明不足を感じたのがあった。二つには、話し方である。皆原稿を書き、それを読むのだが、読み方も人それぞれで単調、明快、リズム感といった温度差があつたことである。

伊藤さんは、新人議員の中では際立つた質問内容、話し方が出来ていた。傍聴に行つた人や、他会派の人からも好評を得たように、新人デビューを見事に飾れたのは、伊藤さんのひたむきな努力と、誠実な人柄であつたのだろう。

伊藤さむ氏 一般質問に立つ！

伊藤さんは、初議会となる6月定例市議会で一般質問に立ちました。市民の傍聴者、行政幹部、各会派の議員が注目する中、新人議員にもかかわらず、話しの内容・話し方・姿勢等いずれも堂々たるもので、聞いていた人たちからも好感を持たれました。

伊藤さんの質問内容は3点で、自分の政策として話してきたことを、調査や勉強をして具体的に述べたものでした（以下質問要旨）。

- 1・商店街の空き店舗利用について 2・バリアフリーについて 3・地域における子供たちの教育環境についてという、まちづくりについてありました。

 - 空き店舗の利用について、最近、越谷本町の空き店舗を利用して「チャレンジショップ夢・空・感」がオープンしましたが、私が注目したのは、草加市で開設された「親子のひろば（のびすく）」のようなものです。それは、3世代の交流、子育て、高齢者の生きがい、商店街の活性化という、複合的な機能を持つことによって、各世代の人々が集い、学び、遊び、交流ができ、まちの中に人の動きが見られますが、それが、まちづくりの基本ではないかと問いました。
 - バリアフリーについて、市が進めている障害者政策では、障害者が自由に移動し、活動できるバリアフリーのまちづくりを謳っています。しかし、例えばファミリーレストランにしてもバリアーのあるところを多く見かけます。市は、どのように政策を説明しているのか、或いは、行政指導をしているのか。また、バスの乗り降りにしても、県は18年度を目途として低床式のバス運行を30%にするという具体的な目標を設定していますが、市長の考えを問いました。
 - 地域における子供たちの教育環境づくりについて、週5日制になって1年が経ち、「学力の低下」「家庭の負担が増えた」「家でTVゲームばかりしている」等の色々な問題が指摘されています。その理由は、本来の主旨である、ゆとり、豊かさ、社会性を学ぶことになっておらず、また、地域や家庭でなかなかフォローすることが出来ていないからであります。

私は、地域にある様々な素材（大工さん・ペンキ屋さん・豆腐屋さん等）を活かし、学び、触れ合う場づくりをすることや、高齢者パワーを活用しながら学び、遊ぶ機会をつくって行くことだと考えており、身近な人・素材・空間を有効活用しながら子供たちの教育環境づくり、まちづくりを進める考えがあるのかと、市長の見解を聞きました。以上でしたが、市長の答弁については、紙面の都合により割愛いたします。

伊藤さんは、次のような議会内活動をすることになりました

- 民生経済常任委員会委員
 - 議会報専門委員会委員
 - 越谷・松伏水道企業団議会議員
会派は、自由民主党、市民クラブで



地域を知るシリーズ No.4



「子供の遊び探検隊！」

体験や遊びを通して創造性とふれあいを学ぶ

伊藤さんが、初議会となる6月定例市議会で一般質問をしました。その中で、子供達の教育環境づくりを地域の人・素材・空間を利用して、つくりだしていくことを市長に聞きました。

そんな試みと重なるものとして、今年5月から各地の公民館で実施されている、「子供の遊び探検隊」（川柳公民館）を実際に見て、関係者に話しを聞いてきました。

越谷市教育委員会では、週5日制に伴う子供たちの教育環境づくりとして、「子供の遊び探検隊」を考えたそうです。対象者は、小中学生で月1回（土曜日午前10時～12時）。期間は1年間。定員は30名位（毎月募集している）。登録されると、「隊員証」が渡されます。

第2回目（6月14日）の今回は、20名位の子供たちが「けん玉」「お手玉」「こま回し」「竹とんぼ」「おはじき」「あやとり」「まりつき」など、昔の遊びを教わっていました。

「こま回し」がなかなか出来ない子供には、指導員（ボランティア）が出来るまで、つきっきりで教えていました。

また、「まりつき」「お手玉」などには、「数え歌」があり、歌いながら遊ぶ昔ながらの雰囲気がありました（数え歌の中には、意味が難しいものもありました）。部屋の中だけの遊びではなく、公民館の裏手にある公園では、石を投げ、自分の行く場所を決めるという遊びもありました。

この子供たちに遊びを教えているのは、市内にある任意団体「余暇指導者連盟」に所属している方々で、歴史、文化、芸能、自然といった広い範囲の研修を3年間受けたベテランの指導者でした。

連盟の事業活動として、「親子で遊ぶ」「本の読み聞かせ」「キャンプ」等様々なことを行っているようですが、会長さんのお話では、「自分たちの役割は、会員の人たちが地域の中に入り、地域社会の人たちと一緒にになって、地域の活性化を行うことです」と言われておりました。

伊藤さんが目指す、地域の活力や教育環境づくりと重なる「子供の遊び探検隊」を見て、聞いた話は貴重なものでありました。そして、とても面白くアイデア溢れた試みなので、是非、子供たちの参加を呼びかけたいと思いました。



伊藤 おさむの

～バリアフリー検証～

私は、これまで何回かバリアフリー検証をこの紙面で書いてきました。また、それらの問題点を踏まえ、6月定例市議会の一般質問でバリアフリーについて発言をしました（内容は4面に掲載）。

しかし、改めて感じたことは、検証の範囲も問題の深さも十分ではなかったことでした。

先日、越谷市内の市民団体による、バリアフリーの点検活動とマップづくりの参加呼びかけがあり、その集まりに出席して話を聞いてきました。この集まりには、障害を持った人や、そうでない人を含めて30余名が参加し、熱心に話し合いをしていました。

「誰もが暮らしやすいまちづくり実行委員会」(仮称)の設立趣意書には、越谷市内のまちを歩いていて、駅・公共施設・お店・道路・公園・交通機関等で不便や危険を障害の有無に限らず、誰しも感じたことがあるのでこの様な会の立ち上げを考え呼びかけたとありました。

そこで、バリアフリーの通知書（点検と進展度調査）とバリアフリーマップづくりに取り組む会を立ち上げることになりました。

○ 会の目的は、

- ①バリアーのない誰もが暮らしやすいまちづくり②ユニバーサルデザインの観点からのバリアフリー③公共施設、旅客施設、商店など皆が出入りする場所を含めたバリアフリー・ネットワークの形成④緊急時に安全な移動ができるまちづくり⑤心のバリアフリーへの理解の啓発。

○ 活動内容は、

- ①建物、道路、駅でバリアフリーとなっている個所の点検を行う②毎年決まった場所を点検し、バリアフリーの進展度調査を行う③防災避難路の点検も併せて行う。
以上の活動を進めていく上で、運営委員会や部会、事務局を設置し、運営費として団体1口3000円。個人1口1000円のカンパを募ります。

私は、このような試みに強い関心と期待を持っています。今後も、バリアフリーの点検と進展調査、そして、バリアフリーマップづくりに参加、協力をしていきたいと考えています。

～市民の声～



伊藤さんの初議会ということで、傍聴に行ってきた。当日は、午後2番目ということだったけれど、家を出る時間が遅れてしまったので、間に合うかどうか心配で、息を切らして駅から市役所まで走った。傍聴席に着くと、前の人人が再質問中だった。執行部側の答弁が終わり、いよいよ伊藤さんの番だ。議長に伊藤さんが呼ばれ、壇上に向かうとき、私もドキドキした。質問が始まった。あがってしまうのかな?なんて思っていたけれど、そんな心配は無用だった。堂々とした話し方、声も通るし、内容についても具体的でとてもわかりやすかった。ウーン、伊藤さんスゴイ!でも、質問に対する答弁だけど、市長も教育長も早口で原稿を読むだけ。心に何も響いてこない。もっと気持ちを入れてよという感じ。だから、執行部から思い通りの答弁を引き出すのは本当に難しいんだなと思った。初議会を経験し、議員としてスタートラインに立った伊藤さん、公約実現のために、もっともっと力をつけて頑張って下さい。これからも応援し続けます。

袋山在中 山崎さん